ある家庭農場の経営継承

主任研究員　若林剛志

筆者は、2023年８月に西北農林科技大学の紹介により、中国陝西省の家庭農場（大規模家族経営）で聞き取りを行う機会を得た。本稿では、この聞き取り先（以下、家庭農場Ａ）の農地の権利継承に焦点をあてた経営継承の事例を取り上げる。

1　家庭農場

12年の中国共産党第18回全国代表大会で、多様な新型農業経営体を育成し、それにより農業の大規模化、集約化、専業化、組織化、社会化を目指し、現代農業経営体系を構築することが打ち出された（注）。現代農業経営体系には家庭経営類型、合作経営類型、企業経営類型、農業生産サービス類型の４つの類型があり、家庭農場は家庭経営類型に含まれる代表的な新型農業経営体である。13年の中央一号文件で家庭農場を含む新型農業経営体の育成が打ち出されて以降、継続的にそれが推進されている。

家庭農場は、家族労働が中心で、主な収入が農業であり、かつ一定の規模要件を満たした経営体である。農業農村部によると、23年10月末時点で全国に400万戸ある。

2　経営継承の事例

家庭農場Ａは、山羊乳を生産する酪農家である。中国畜牧獣医年鑑によれば、21年の牛の生乳を除く生乳生産量は95.4万トンであった。この数値には、主としてラクダ、緬羊および山羊の生乳が含まれると推察される。95.4万トンのうち57.3万トンが陝西省で生産されており、最大となっている。中国で山羊乳を加工するある乳業会社の職員によれば、陝西省は中国有数の山羊乳生産地域であるとのことであり、57.3万トンのうち山羊乳の占める割合は相対的に高いものと思われる。

家庭農場Ａでは、後継者（息子、34歳）、後継者の配偶者、後継者の父母の４人が働いている。父は、県のモデル農場として、あるいは省内における所得向上への優れた取組みを行う農場経営者として過去に表彰される等、優れた生産者である。

聞き取り時の飼養頭数は200頭である。聞き取りによれば、近隣の酪農家が廃業する時に、飼養している山羊を引き取って飼養頭数を伸ばしてきた経営体が家庭農場となっている例が多いとのことであった。家庭農場Ａも同様であり、継続的に経営の責任者である父が経営規模の拡大を図り続けている。

家庭農場Ａが経営を継続していく上で、もっとも育成すべき対象は後継者である。その後継者は、これまで多くの時間を優れた酪農家である父の下で費やし、酪農に従事してきた。しかし、それまでの経験や周囲からの影響も見逃してはならない。

後継者は大学で獣医学を学んだ後、内モンゴル自治区の牧場で山羊の飼養に１年間従事した。その後、父が経営する牧場で働くこととなり、既に10年を超えている。父の下で働くことから得られる実践的技能と獣医学を専攻して学んだ知識、内モンゴルでの１年間の牧場勤務経験、村内に10戸程度ある酪農家と高め合っている技量をうまく融合化し今に至っており、既に山羊の飼養にかかる一連の業務は十分心得ている。加えて、後継者は、父の後を継ぐ決意を表明している。

牧場経営を継承する準備が着々と進み、かつ経営継承の強い意志はあっても、責任を一身に背負いながら経営を行った経験は不十分である。経営者である父は、近い将来に後継者である息子に対し、牧場経営に必要な新たな試練を課そうとしている。それは現在の飼養規模200頭から700頭への増頭である。

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

経営者である父は、これまで経営規模を継続的に拡大してきたが、それは決して現在の生計のためだけを考え行ってきた訳ではない。息子が後を継ぐことが濃厚になり、一層の規模拡大を図ることで、後継者が牧場経営を継続できる環境を整えてきているのである。

今回の500頭の増頭において、父は新施設を設け、その新施設の主たる経営を後継者に任せることとしている。新施設が稼働すれば、現状より多い500頭の飼養管理はもちろんのこと、新たに必要となる雇用に伴う労務管理が求められる等、自らの判断が経営に影響を及ぼすようになる。そして、新施設の建設には建設費用の2/3に相当する額の借入れが生じ、新施設での牧場経営に伴う実践的な管理業務も任されることになる。このように、家庭農場Ａでは、いずれ実施される経営の完全継承に向けて、着々と、そして周到に経営の継承プランが仕組まれているのである。

3　農地の権利継承

家庭農場Ａの農地経営面積は19ムー（約1.3ha）である。このうち13ムーの農地経営権がこの家庭農場Ａに譲渡（貸し出）されているが、全ての契約は口約束である。中国では農地経営権等を取引する農村産権交易所を開設し、書面での契約を仲介する等、トラブルのない円滑な取引を推進しようとしている。しかし、貸し手である農民の多くは手続き上の面倒を好まない。加えて、本事例が典型例であるが、貸し手は経営者がよく知る人物であること、農地を適切に管理できること、信用に足る人物であることを考慮して農地経営権を貸し出す傾向がある。

一般的な経営資源は後継者に譲渡されることで継承されていくが、農地経営権という財産権の取引においては、依然社会関係が重要な位置を占めている。社会関係により取引が行われる農地経営権は、借り手の農地管理能力と相互の信用によって取引が成り立っている。したがって、この信用という無形の財産は、現経営者から受け継ぐというよりもむしろ、後継者が新たに貸し手との個人的ネットワークを築くことで深まるものであり、貸し手が後継者をどうみるかが農地貸借における重要な要因となる。事例の後継者の場合、ここで父の下で10数年酪農に従事してきたことが生きてくる。後継者が父の下で従事してきたことは近隣住民の知るところであり、貸し手による後継者への見方が今まさに形成されつつあるからである。

4　農業を支える人材に期待

中国では、農民の高齢化や出稼ぎ等で、農民による耕作が困難となった農地を利用する大規模経営を育成してきた。家庭農場はその１つの形態であり、家庭農場Ａにおける経営規模の拡大も、大規模化、集約化、専業化の現代農業路線の軌跡上にある。

経営継承では、資産や技術等の経営資源の継承がなされるが、農業経営における重要資源である農地の取引には社会関係が求められる。したがって、家庭農場が農地の受け皿としての機能を果たすには、家庭農場内部において現経営者から後継者へ農地の権利を受け継ぐだけでは不十分であり、貸し手と後継者との良好な社会関係が必要となることを念頭に置かねばならない。

家族農場は、主な収入が農業である経営体であり、農業で生計を立てていくためには、相応の経営規模が求められる。経営規模には往々にして農地という重要な経営資源を確保していくことが重要である。今、後継者が求められているのは、新施設の経営と社会関係の構築である。こうして培った多様な力が、経営能力として後継者の糧となり、農業を支える人材に育っていくことを期待したい。

（注）組織化の組織は合作組織（協同組織）、社会化の社会は作業受託等農業生産を支援する組織を指す。

※本研究はJSPS科研費21K05824の助成を受けたものです。

（わかばやし　たかし）